

第7次小矢部市総合計画 市民フォーラム実施報告

平成 30 年 3 月

小矢部市

実施概要

■目的

平成31年度を初年度とする新たな総合計画の策定に向けた取り組みを中間報告という形で説明し、市民からの意見を計画に反映することを目的とする。

■開催日程

平成30年3月16日(金)

午後7時～午後8時40分予定(開場 午後6時30分)

■会場

クロスランドおやべ セレナホール

■実施内容

- 1 開会あいさつ 市長
- 2 総合計画策定趣旨説明 企画政策部長
- 3 【第1部】基調講演
演題 「未来へつなぐ しあわせあふれる まちづくりに向けて」
講師 小矢部市長
- 4 【第2部】パネルディスカッション
テーマ 「小矢部市の将来像とその実現を目指して」
コーディネーター 金岡省吾(富山大学地域連携戦略室長)
パネリスト 桜井森夫(小矢部市長)
中塚 弘(小矢部市自治会連合会 監事)
林 説則(小矢部市商工会 会長)
嶋田幸恵(小矢部市女性団体連絡協議会 会長)
六谷成伸(小矢部青年会議所 理事長)
村上一宏(総合計画策定委員会調整委員会 座長)
- 5 来場者の意見

■来場者

170名(うちアンケート提出91名)

小矢部市総合計画市民フォーラム ご意見アンケート調査結果（要旨）

I. 調査の概要

1. 調査の目的

平成 31 年度を初年度とする新しい総合計画を策定するにあたり、基本構想等中間報告（案）についての意見などを伺い、今後の市政の参考とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象 平成 30 年 3 月 16 日開催の小矢部市総合計画市民フォーラム参加者
(2) 回収数 91

II. 調査結果の要約

1. 基本構想等中間報告（案）についての意見

- 全体では「良い」、「これまでの取り組みについて成果が出ていることが分かった」など、高く評価する意見が多くみられた。
- 要望としては、「人口増への取り組み強化」、「少子化対策」、「交通体系の充実」、「商業の振興」、「小矢部ブランドの定着推進」、「企業誘致」、「競争を勝ち抜くための具体的な戦略」、「PRの強化」、「『集中とネットワーク』を基本とする土地利用」、「債務・無駄な経費の削減」、「健全な財政運営」など多岐に渡る意見がみられた。
- また、「健康・スポーツ・介護予防等の分野があまり見えてこない」、「基本計画についても実施計画と同様に前後期があっても良いのではないか」、「市民との連携が重要」といった意見もあった。

2. おやべ夢構想（素案）についての感想

- 全体では「良い」、「これまでの取り組みが良い方向に進んでいる」など高く評価する意見が多く、併せて「夢で終わらせることなく、具体的な施策を一つひとつ確実に実行していくことが重要」とする意見も多くみられた。
- 要望としては、「安心して子供を産み育てることができる環境づくり」、「産業の活性化」、「街中の活性化」、「若者・女性・高齢者など住みやすい街づくり」、「人口減への対策強化」、「交流人口の増加」、「観光の充実」、「教育環境の充実」など多岐に渡る意見がみられた。
- また、「夢構想の項目数が多過ぎる、的を絞って重点化が必要」、「スポーツ関係の構想がない」、「もっとスケールの大きな夢構想を」、「夢構想実現のため官民一体となった取り組みが必要」、「夢構想のストーリーを市民に分かりやすく伝えることが必要」といった意見もあった。

3. あなたが考えるおやべ夢構想

- 全体では「賑わいのある街づくり」、「産業の活性化」、「子どもや女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが住みやすい街づくり」といった意見が多くみられた。
「賑わいのある街づくり」は観光・娯楽施設・イベントなどを通じて、「産業の活性化」は雇用の確保・企業誘致・商業や飲食店の活性化などを通じて取り組むべきという意見がみられた。
- また、「人口減への対策強化」、「関係人口・交流人口の増」、「交通体系の充実」、「観光施設の増設」、「PRの強化」、「結婚支援の強化」、「人づくりの充実」といった意見もあった。

4. 総合計画に対しての意見、提案

- 全体では「人口減への対策強化」、「結婚し、子どもを育てやすい環境づくり」、「産業の活性化」などに取り組むべきといった意見が多くみられた。
- また、「地域ブランドの開発」、「小矢部市の良さを実感できる街づくり」、「空き地開発やマンション建設」、「交通体系の充実」、「PRの強化」、「高等教育機関の整備」、「身の丈に合った施設整備」、「民間活力や住民との連携」、「市民との意識共有」に取り組むべきという意見もあった。

■第7次総合計画市民フォーラムアンケート回収結果

	男性	女性	未記入	合計
10歳代	1	0		1
30歳代	1	1		2
40歳代	7	1		8
50歳代	14	9		23
60歳代	27	5		32
70歳代	12	7		19
80歳代以上	3	2		5
未記入			1	1
合計	65	25	1	91

No.	(1) 性別	(2) 年齢	(3) 基本構想等中間報告(案)への意見
76	男性	40歳代	P8「均衡ある発展を促す土地利用の推進」について？人口減少社会では「均衡」ではなく「集中とネットワーク」を基本とする土地利用とすべき
18	男性	50歳代	政策(p10)が多すぎると思う
32	女性	50歳代	企業誘致はどれだけ依頼し(数字)どこへ…実現数
37	男性	60歳代	交通体系の充実で市営バスの運行体制であいの風鉄道の石動駅の発着時刻に合せた運行を考えてほしい。
39	男性	60歳代	・今の時代日々大きく変化しており、10年のスパンは長い。実施計画は前後期5年としているが、基本計画においても前後期があってもいいのでは。特に前期の5年は大切と考える。 ・結果を数値で示すことも大切だが、各項目の現状と目標を数値化してあらかじめ示すことが必要では(文章だけではいかなものか) ・人口減対策をもっと記述してはどうか(定住人口、交流人口の観点)
48	男性	60歳代	全体的に網羅されていないように思う。健康・スポーツ・介護予防等があまり見えてこないような気がする。
55	男性	60歳代	一般的な地方都市(田舎街)で暮らしやすい町づくりの基本構想としてはすごく当然な計画と思います(住みよさ全国14位はすばらしい)田舎に暮らすには基本的に良しとみてはよいのではないかと。不動産が安くて職場が近ければ新住民はいるだろう(金沢・高岡の居住地)
59	男性	60歳代	シティプロモーションをどう考えるか先進的な取組みをしてくれているが、PR(3ページ)が弱いのではないかと。近悦遠来が今住んでる人が満足することで市民が小矢部の魅力をPRしてくれることで人が来る。
71	男性	60歳代	・小矢部型農業の意味は？=不明。ハトムギとメルヘン米を絡めた目標にならないのか。 ・富山市の良好なアクセス性→高速バス・自動車・電車(特急や快速がなくなった現在何を指すか)
9	女性	70歳代	イベントをする行事で市民が知らない場合が多い
74	男性	70歳代	街中の賑わい取り込むとは美辞にすぎない。車時代に対応が全く遅れている。
No.	(1) 性別	(2) 年齢	(4) おやべ夢構想(素案)の感想
46	男性	30歳代	構想13は構想9と連同されるといいと思います。構想15は観光ををきっかけに定住への流れを作るのはどうですか。
47	女性	30歳代	妊娠・子育てをしていくイメージ。使用できる機関や施設など悩み相談などもっと詳しく具体的にイメージできるようにアドバイザーのような方がいればいいと思う。小矢部には経験豊かな高齢者の方がいらっしやるので、ぜひ子育て世代の支えになってほしい。実家が遠い人もいるので、高齢者の方の豊かな経験や優しさを生かしてほしい。
36	男性	40歳代	小矢部はベットタウン化しているので、子育てする親が安心して働ける環境づくりに力を入れてほしい。学童保育のさらなる延長19時まで。
64	男性	40歳代	横ドルネサンス構想は面白い発想だ。
77	男性	40歳代	・横ドルネサンスはぜひ実現してほしい ・出店を自己所有物件とするのは負担が大きいため、賃貸物件やテナントビルがあればいいのかな
1	男性	50歳代	なぜベット施設？という思い。スポーツ関係の構想がないのか不思議。
18	男性	50歳代	15は多すぎるでしょう。大きな夢が必要。重点構想を決める。
69	男性	50歳代	もっとスケールの大きい夢があってもよいのでは？また、夢多過ぎませんか？
4	男性	60歳代	構想9、10をしっかり取り組んで街中の活性化を確実に完成してほしい。そこそこの広さの敷地を確保して飲み屋横丁をつくれればよい。東北のある街で成功例がある。
21	男性	60歳代	アパレルバレー構想おもしろい。 アウトレットを中心としてファッションが創りだす街づくり大いに宣伝してほしい。
26	男性	60歳代	寿永荘に変わる建物、施設を考える
37	男性	60歳代	ウォーキングタウンおやべ構想で以前子撫川で一の滝まで歩道整備の話があったと思うが、ぜひ「哲学の道」みたいな歩道を作ったらいいと思う。
43	男性	60歳代	構想9～15を実現可能順にしては。
52	男性	60歳代	・アウトレットモール、地域産業と連動するファッション・コスプレ・アニメなど若者・女性が集まる街づくりは賛成。 ・第6次にあった歴史を活かすものを引継ぎ発展させる。
66	男性	60歳代	あまり沢山必要ない
71	男性	60歳代	・今石動城跡と寺院のまちづくり→歴史学習講座の施設や歴史を説明する掲示板など ・まちなカルネサンス→空き店舗、空き地、現店舗改造も含めてオープンカフェのある通りをつくる ・石動駅となみ野結節点化構想→駅南整備の中で駐車場の充実、石動駅の利便性・優位性の確保を進めるのがポイント

No.	(1) 性別	(2) 年齢	(3) 基本構想等中間報告(案)への意見
51	男性	70歳代	人口減少問題 社会状況の変化をどのように変えられるか？ ・工場では夜も仕事をしなければならない (3交代制になっている) ・コンビニは24時間営業でしょう ・正月も盆もなく年中無休になっている、いつ子育てできる？
74	男性	70歳代	市役所は新天地の中心部の郊外へ移転を計画的に
No.	(1) 性別	(2) 年齢	(5) あなたが考える夢構想
76	男性	40歳代	「メルヘンおやべ外国語スクール構想」メルヘン建築に魂を注入すべく、市内小中学校で英語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語の(選択)授業を行い国際教育を推進する。
77	男性	40歳代	ランニング拠点のクロスランド ランニングステーション(民間)を設置して、休日、夜間のランニング拠点にする(更衣室・シャワー完備) 周辺に飲食店、スポーツショップなどの立地をもくろむ
4	男性	60歳代	28,000人であっても活気がありにぎわいのある街であり続ける方策を今からしっかりと作り上げる。寺院をつなぎ四国八十八めぐりのかたちを作り上げたい。
5	男性	60歳代	地元で働いて、地元で消費するようになれば、経済活動が活発になり色々な産業が立ち上がってくる街づくりをしたい。
49	男性	60歳代	小矢部に「大学」が出来たら理想だなと思っていますが、もっと身近なところでシングルマザー・ファザーへの支援が大切かも。
80	女性	60歳代	小矢部をアピール食品全国へ(人は食をもって元気になれると考えます)
9	女性	70歳代	おせっかいさんをもっと増やして、結婚数も多くなることを望みます。夢が夢で終わらないよう願います。
33	女性	70歳代	都会の大学を卒業して小矢部で住みたくなるよう大型ショッピングセンターや娯楽施設の誘致をして人口増につながれば良い。
51	男性	70歳代	街中賑わいの一環として「紙しばいの店」「地方色のある店」「獅子舞事業団」の設置
61	女性	70歳代	・高齢者が地域の子供を見る。それには行政より若干の報酬を出す。 ・民泊を推進する(空家対策)
74	男性	70歳代	近い将来必ずやってくる道州制を見据えて、基盤をしっかりと整えなければならない
83	女性	70歳代	高校を卒業して県外の大学へ行く若者が地元へ戻ってこれるような魅力ある企業誘致を積極的に行ってほしい
56	女性	80歳代以上	地域ごとにスポーツ広場があれば良いと思います。
No.	(1) 性別	(2) 年齢	(6) 総合計画に対しての意見、提案
46	男性	30歳代	内容は大変に良いと思う、実現もできている。しかし、実質面が良いのに、対外的な発信表現がなされていないと感じます。人口の転入・定住はこんなにすばらしい小矢部市を多々の人に知ってもらうことが必要と感じます。「人口減少」というマイナスよりすばらしい小矢部をアピールして下さい。
36	男性	40歳代	石動高校の魅力を高めて他市からの呼び込みが出来るように努めてほしい。
1	男性	50歳代	実現に向けていかに多くの市民が参画できるかがポイント。パネリストの話の聞くと、行政のかかわりについても考えていけるべき。1%まちづくり事業の考え方(自ら取り組む)が中心になっていけばよい。
30	男性	50歳代	人口増を市民全体で真剣に取り組む課題だと思えます。
67	男性	50歳代	人口対策の一点だと思う。富山、高岡や金沢のようなベットタウンの施策を特徴的に打ち出していく。土地は安価なのだから空家対策をうまく進めていけばよいのではないかと。不動産屋のプロをもっと使ってアドバイスを受ける。
69	男性	50歳代	小矢部市には住み良さランキングにふさわしい実力があるのか。ランキングを実感出来るまちづくりを期待します。
39	男性	60歳代	総合計画は行政の計画であることは承知しているが民間活力や住民の関わりとの視点があってもいいのでは。
52	男性	60歳代	・相当に思い切ったことをしないと、将来はないと思われるが頭の切り替えと財源の確保が必要。 ・夢構想も8+7=15であるが本当にどれで勝負するのか？的を絞る、重点化が必要では。
58	男性	60歳代	いいとこ小矢部を市民全員で発信する。小矢部の不平不満を発信しない。
71	男性	60歳代	福岡・小矢部東・小矢部の3インターを活用した交通網の充実(クロスランド、アウトレット、中心市街地へのアクセス向上を考えて欲しい。島分交差点に象徴される交通。各ICからのアクセス向上)
73	男性	70歳代	構想が多くぜいたく。その中でも重点化を図るべきではないか。(仕事・街・人のしくみ)
23	男性	80歳代以上	教育等で都会に出て行く人が多い。今は言うだけで実現は逆であり、高等教育に疑問がある。

第7次小矢部市総合計画市民フォーラム

日時 平成30年3月16日(金) 19:00～

場所 クロスランドおやべセレナホール

〈パネルディスカッション〉

司会(坂田)	<p>お待たせいたしました、それではパネルディスカッションを始めさせていただきます。</p> <p>本日のテーマは、「小矢部市の将来像とその実現をめざして」です。</p> <p>では、パネルディスカッションに参加される皆さんを、ご紹介いたします。</p> <p>まず、コーディネーターには、富山大学地域連携戦略室 室長の金岡省吾先生にお願いしております。</p> <p>また、パネリストには6名の方をお願いしております。</p> <p>まず最初に、桜井森夫小矢部市長です。</p> <p>小矢部市自治会連合会 監事 中塚 弘さんです。</p> <p>小矢部市商工会 会長 林 説則さんです。</p> <p>小矢部市女性団体連絡協議会 会長 嶋田幸恵さんです。</p> <p>小矢部青年会議所 理事長 六谷 成伸さんです。</p> <p>小矢部市総合計画策定委員会調整委員会 座長 村上 一宏さんです。</p> <p>以上の皆さんで、「小矢部市の将来像や 重点プロジェクトなど について」ご意見を賜りたいと思っています。皆さん、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、ここからの進行はコーディネーターの金岡先生にお願いしたいと思います。金岡先生、どうぞよろしくお願ひします。</p>
金岡 コーディネーター	<p>金岡です。よろしくお願ひいたします。予定ではですね、35分スタートだったんですけども、すでに10分遅れてます。10分押しの可能性もありますが、皆さまご了承ください。</p> <p>まずですね、市長の方から開会挨拶の中で、ずっとメモをしていたんですが、総計10年間のあり方で羅針盤なんだと。今後、ここで中間報告が見えてきたので、皆さんに忌憚のない意見ということでスタートしたと思います。その後、基調講演20分ほどいただきましたが、折り返しだと、6次、「魅力・安心・充実」の6目標をお話いただきながら、順調だと、上位ランク、ランクの上位という住み良さ等、いろいろ出できたんだというお話があったと思います。この中でですね、ひとつポイントがあったと思うんですが、国の予測、人口が26,100人、ただ、小矢部市は28,200人。国の予測よりも上に行くんだと、そのために6次総計です。でございました「魅力・安心・充実 6目標」、これを継続しながら新しい施策を入れながら「しごと・まち・ひと・しくみ」これを作っていこうと。まあ、このようなお話を市長のほうにいただいたと思います。これからパネルディスカッションという形で、さきほど市長がお話になった忌憚のないご意見という形ですので、皆さま方からご意見をいただくというのが今回のパネルディスカッションになります。パネルディスカッションにつきましては、大きく3つでございます。自己紹介を兼ねていただきながら、お一言ずついただきながら、重点プロジェクトと重要施策、こちらについて、ひとつお話をいただくといった項目があります。そちらと、</p>

	<p>最後に市長のほうがお話になってましたが、「おやべ夢構想」、夢、この3つからパネルディスカッションを組み立てていきたいと思います。このあと、会場からのご意見という形で、お時間をみてはおるんですが、すいません、10分押しでございますので、ここは微妙な状況です。で、最後に総括という形でまた市長にお話いただきながらという形で、20時45分、あと1時間でございますが、皆様方、お付き合いいただければと思います。</p> <p>それではさっそくでございますが、一つ目です。イントロダクションという形の中で、ここ予定では19時45分でしたが、10分押しですので、55分ぐらいまで、自己紹介と市の将来像につきまして、皆様方から2分程度で、中塚様からお話をいただければと思います。申し訳ございませんが、中塚様からお願いします。</p>
中塚	<p>はい、改めましてこんばんは、小矢部市自治会連合会から参りました、中塚弘でございます。よろしくお願いいいたします。さきほど、市長の基調講演を聞かさせていただきました、まず少子高齢化、そしてまた高齢者がですね、人口の約4割になるんでなかろうかなと思っております。10年後ですね。そのためには、高齢者の健康寿命の延伸、そしてそのためには、高齢者がまちなかを元気に行き来できるように、あるいは、そのためにはバリアフリー化、あるいはまた、公園緑地のもっとの施設の完成度と言いますか、極端に言えば石動のまちの商店街にですね、日中、元気な高齢者の人が行き来して、そしてまた城山には季節を楽しんで散策する人がおいでる、そういうような10年後になれば非常にいいかな、そのように思います。そしてまた、若い方が少ないといいますが、結婚適齢期の方が非常にシングルの方が多いということですから、20代の方が男性で4割でしたですか、30代の方で3割、4割弱でしたですか、それでいろんなイベントのあるときに、また若い方を招待などしていただいでですね、出会いの場をみんなで設ければいいかなと、そのように思います。以上でございます。</p>
金岡 コーディネーター	<p>はい、ありがとうございます。少子高齢化という切り口の中で、健康、元気、そちらと若い方々が入ってこれるとい、そういったような将来像を語っていただきました。</p> <p>はい、林さま、お願いいいたします。</p>
林	<p>小矢部市商工会の林でございます。いつも大変お世話になっておりますことを、厚く御礼を申し上げます。本来でありますならば、経済団体といたしましては、市のつながりと一番太いパイプで市を盛り上げるように努力をしなければならぬ立場におるわけでございますけれども、残念ながら微力なりのお手伝いをさせていただいておるわけでございますが、希望通りにはなかなか到達していないのが現状でなかろうかなというように、私なりに思っております。</p> <p>それで私の一番の願望は、先ほどから市長さんが基本方針をおっしゃいましたけれども、すべてが網羅すれば最高なんですけれども、ひとつひとつやはり力の入れようが、なにか変え</p>

ていかなければいけないんじゃないかというように思っております。それから私の一番ネックにしておるところは、やはり人口問題。これが少子高齢化等で、非常に、私どもの自治体だけではなくして、全国的、県下の自治体すべて、こういうことをおっしゃっていらっしゃるわけでございます。では、あちこちの自治体で人口が増えて、年々人口が増えてというような情報みたいものが、いまひとつ欠けておるんじゃないかなと。我が市においてでも、先ほどのスライドを見てみますと、幾分か観光入りこみつつ、等々含めて、少しは増えているというものの、定住人口、こういうようなところにおいては、非常にまだ欠けているのではなからうかなというように思っております。極端なことを申し上げれば、若い娘さんあたりが小矢部で定住しようと思ったら、出産は全部無料というような。過酷なことかもしれませんが、そのぐらい医療費も無料！学校も無料！というような形にすれば、いささかなりとも若い方が定住されるんじゃないかな、というように、これをやりますと、あちこちの事業が、点で止まってしまいますんで、やはりその辺のコントロールというものを考えながら、強弱で仕向けると、執りかかるということが必要でないかなというように私個人的には思っております。またひとつ、よろしく願いを申し上げます。

金岡
コーディネーター

はい、ありがとうございました。重点化、人口という形で最後、強弱をつけると、特長的な定住策、というようなお話をいただきました。続きまして、嶋田様、お願いいたします。

嶋田

女性団体連絡協議会でございます。少しご紹介と、小矢部の将来像についてお話をさせていただきます。小矢部市女性団体連絡協議会というのは、市内団体の15団体が加入しております。それぞれの団体の活動目標をもって事業を展開しているところでございますけれども、また団体同士が、女性団体連絡協議会のなかで、お互いに尊重しあいながら、女性団体の地位向上、福祉の向上というところに努めているところでございます。女性議会の開催や、市政を学ぶ市長との懇談会、他市との交流会、そういうところはしっかりとさせていただいているということになります。また、女性議会を得ているものですから、審議委員の委員を務めさせていただいております。その点では、色々な構想の中に女性議員の経た、色々な審議委員会への提言というか、そういうものは取り入れられてるかなというふうに思っております。先ほどから、市長さんの基調講演を聞かせていただきまして、6次総合計画、「おやべ夢構想」これが着実に進捗していて、結果をだしてるなというふうに、数値的には感じたところであります。しかし、いま住み良さとか、それから住んで良かったというところが出ているところですが、どうしても人口減少が激しく、そこにはなぜ結果が出ていないのかなというふうに思っております。小矢部というのは、災害が少なく、自然が豊かで、歴史的財産、文化的財産、いろんなものがあります。その中で、人口減少、少子化、高齢化が進むなかで、この女性議会の質問を色々いただくんですが、市長さんへの懇談会への質問を見ても、やはり女性の視線を生かした提案、発想があるなというふうに思っております。女性は自分たちが仕事を持ち、子育て、教育しておりますので、充実した環境整備を自らが発言して提案するということをし

	<p>ていきたいというふうに思っております。この、子ども達のまちづくり、子どもたちの為にも積極的に取組んでいきたいというふうに思っております。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。着実な成果という形の、お一言をいただきましたが、人口減少どうするのかと。女性の視点から、最後、子どもたちに対するまちづくりと。こういったお一言をいただいた形でございます。続きまして、六谷様、よろしくお願いいいたします。</p>
<p>六谷</p>	<p>公益社団法人小矢部青年会議所 理事長を務めております、六谷成伸と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。私の方からも、小矢部青年会議所について、ちょっとだけ説明をさせていただきますと、20歳から40歳までの青年経済人で構成されている団体でございます。今年、41名の会員をもって活動しております。特に、ひとづくり、まちづくり、青少年の育成を中心に活動しております。具体的には、市民がリーダーとなれるような著名人を呼んだ講演会の開催であったり、小矢部の魅力を発信するようなイベント、青少年事業に至っては、わんぱく相撲の開催という活動を行っております。そしてまず、私が小矢部の将来のことを考えますと、数年前から、小矢部市は消滅可能性都市だと言われております。なんだか、小矢部市がなくなってしまうんじゃないかというような風潮というか、危機感が非常に迫っているのではないかなと、いうふうに思っております。ただ、「小矢部市」というこの地域がなくなるわけではなくて、この小矢部というのは残りますし、自然だったり、文化であったり、こういったものは、決して私は無くならないと思います。ただ闇雲に、消滅可能性都市だからといって怖がらないで、しっかりとその事も視野に入れながらも、私たちが10年後をイメージしながら、皆がどうしたら幸せに暮らせるのかを、考えていかなければいけないのかなというふうに私は思っております。よろしくお願いいいたします。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。危機を煽るのではなく、10年後、しっかり見据えようというようなご意見だと思います。では最後に村上様、お願いいいたします。</p>
<p>村上</p>	<p>昨年8月より、市民18名、行政職員25名で、総合計画策定委員会専門部会を開催しております。その中で、総合計画の基礎となる部分を取りまとめており、その座長をしております村上といいます、よろしくお願ひします。私、個人的には6次総合計画、前の総合計画ですけども、どちらかという印象として、市民協働が、やっぱり前へ進んだ6次だったんじゃないかなと思っております。まあその中でも、市民協働の中で、たとえば振興会や公民館との行政との連携。そして各種団体と行政との市民協働連携というものがあったと思うんですが、ただ、ひとつ最近、不安に思うことがあります。それは何かと言いますと、これまで市民と一緒にまちづくりをしてきた団体が、どんどん高齢化を迎えたり、構成人数が少なくなってきたりしております。そういった意味では、これからまた新たな市民協働っていうものを7次でもスタートさせないといけないのかなあと、そういう思いをもっております。</p>

<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。重要な視点ですよね、協働、新しく、新たなこうですとか、できているところですが、皆様方のお立場から、それぞれ自治会商工、行政団体、JC、あと最後は計画に携わっている座長の方という形でお話をいただきました。</p> <p>では、もう少し中身に入っていきたいと思いますが、いま、それぞれの方々から切り口を出していただきました。ここからはですね、少し、重点プロジェクトについてお話をいただきたいと思います。</p> <p>4つのプロジェクト、さきほど市長の言葉をお借りしたときにも、「しごと・まち・ひと・しくみづくり」と、4つほど出てまいりましたが、この4つのプロジェクトで重要と考えるもの、あるいはまたその推進のために重要な施策、いくつも出てまいりましたが、そちらにつきましてお話をいただきたいと思います。林様からお話をいただければと思います。</p>
<p>林</p>	<p>先ほどの話に尽きるわけでございますけども、みなさんもよくご承知の通りですね、日本の人口も40年後になりますと、1億をきってしまうわけなんですね。これからの日本を背負っていくのには、大変なことだろうと思うんです。労働生産人口等についても同じように減少していきます。それじゃあ、どうして行けばいいのかということになっていきますと、定年云々というようなことで、いま世間では騒ぎ立てておりますけども、定年を迎えてでも、十二分に働けるような年代の方が、多々いらっしゃるわけですね。身体的にどうしてもご都合の悪い方は別として、元気な高齢者というのはたくさんおるわけですから、そういう人たちの仕事というものが、しっかりとまたできるような形になれば、もっと活力あるような形が持続できるんじゃないかと、私なりには思っております。先ほども、ある方がおっしゃいましたけども、小矢部市も消滅都市の中に入っておるといような噂もちょっと私も耳にいたしております。決してそういうことのないようにですね、やはり生き残りたいというように思っております。また色々とお知恵をだしていただければ幸いかなというように思っております。以上でございます。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございます。人口減少、といった形に対して、活力をどう持続していくのかと、「小矢部は生き残るんだ」といような強いメッセージだと思います。では、嶋田様お願いいたします。</p>
<p>嶋田</p>	<p>はい。この4つの重点プロジェクト、どれと言われても、これが総合的にやっていくことによって、しっかりと担えるものだというふうに思っていますが、どうしてもひとつと言われるなら、やはりひとつづくりプロジェクトだろうというふうに思っています。本当に出生数が減少してまいりました。いまの市長さんのお話では199人でしたが、昨年この出生数は166名、まさにこの1ヶ月に14人生まれるかどうかというようなことになってきている。この出生の、「おめでとう」の欄を見ると、寂しくなるわけなんですね。新聞の。やはり人とか、子どもの</p>

	<p>笑い声、動きがないというのは、人口減だけではなくて、小矢部市全体の元気がなくなっていくというふうに思っています。女性団体では、出産できる産科をとということで署名運動しまして、市長さんや、北陸中央病院さんに要望して参りましたが、色々と策をねっていただいているんでしょうけれども、いまだ実現しておりません。私たちは、「妊娠・出産・子育て」、これは、不安の連続であります。身体へも現れてきますから、職場復帰も心配です。そういうことを思うと、安心して「結婚・出産・子育て・教育」ができるまちづくりが一番、要であろうというふうに思っていて、その中で、女性の声をしっかりと聞いていただき、実現につなげていくということが大切であろうというふうに思っております。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。4つ総合的だと。そうですね。ただ、その中でどうしてもというなら「ひと」というような一言をいただきました。子育て、出産を含める中で不安解消を、というような女性の声を、ということでございました。六谷様、お願いいたします。</p>
<p>六谷</p>	<p>はい。私も今嶋田さんが言われたとおりに、やはり今の女性の方を中心とした社会づくりが必要ではないかなというふうにごく感じております。この中のプロジェクトで言うと、「しくみづくり」なのかなというふうに見させてはいただいたんですけど。そのしくみづくりの上に、しごとづくりも、のっかかってくるのではないかなというふうに考えます。しくみプロジェクトの方向性も記載されておりますけれども、私は、教育施策が重要ではないかなというふうに考えております。小矢部市のホームページのちょっと見させていただいたんですけども、そこには小中学生の児童生徒数が載っておりました。26年の6月の資料ではございますけれども、中学校では4校合わせて各学年が250人程度、小学校では各学年が約200人ぐらいということで、まあ、50人減っているということで、各学年ございました。私が学生だった頃は、だいたい一学年、石動中学校で200人ぐらいおまして、5クラスがあったということで。それがもう、4校合わせて200人もいないかというような現状があって、この先やはりもっともっと減ってくるのではないかなというふうに思います。まあ近くでは、福光高校が2020年4月から福野高校と統合するというので、他の所だから関係ないではなくて、やはりこの小矢部、石動の高校にしても、いずれはきっとそのような問題が出てくるのではないかなというふうに思います。ほんとに、急に石動高校が廃校になりますよとか、統合されますよとなると、慌しくそこで「やあ、だめだ！」当然そうなるんですけども、それをもっと先に勉強、皆さんたち私も、どうしたら一番いい結果が生まれるのかを、今から考えておく必要があるのではないかなというふうに思います。まあ、勝手なイメージですけども、やはり小矢部はホッケーが非常に熱心に指導されておりますので、まあ小学校では各学校で、ホッケーを中心とした教育を、スポーツ教育をしていただいて、中学校になると、やはり一学年が30人とか40人とかなくなってくると、やはりやりたい部活とかスポーツも、限られてきます。たとえばバレーがしたいなと思っても、バレーができないんですね。そうなくなると選べるチャンスもなくなりますし、なにか子ども達の成長にいい、吹奏楽をやりたいとか、も</p>

	<p>っと絵画とか書についてやりたいとか、そういったところの、子ども達が自らやってみたいと思えるような学校になってくると、やはり、その噂を聞いた親たちも、ここの小矢部に来れば、いろんな体験が学校でできるとか、そういったことが出来るんじゃないかなというふうに思っております。以上でございます。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい。あの、教育という形の中で、選択できる機会。そうですね、それによっていろいろこう変わってくるというようなお話をこういただいたと思います。それでは、村上様お願いいたします。</p>
<p>村上</p>	<p>先ほどの基調講演の中で、私の記憶する限り、はじめて10年後の目標人口が、現状よりも下の数字で設定されたのが、非常にやっぱり、今回、設定せざる得なかったという部分も、実は調整委員会の方でもあったんですけど、非常にショッキングなことでありました。40年後、たとえばいくつかの調査機関が1万5千人、ある程度上手くいったとしても2万人というこの数字。もちろん、そういう考え方からいくと、ほんとにまちづくりとか、まちの中で一生懸命、たとえば市民協働、行政と一緒に動く方々も少なくなりますし、それから財源も少なくなる。やっぱりそういった状況を打開するには人口を増やさなければいけない。人口を増やす増やすといっても、ただ増えるわけでもないものですから、どう増やしていくか、まあそういう意味では、私自身この4つの重点施策については、やっぱりそれぞれが必要なものでないかなと思っております。それぞれの部分をより一層、魅力的なものに、市民と行政が磨き上げていく、この作業を10年やっていかなければいけないのかなと、そういうような感覚を現在強く思っております。以上です。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございます。その通りだと思いますね。人口減少を、人口減を目標にする、実は10年以上前から分かっていたところだったんですけど、なかなかできなかったと。市長も先ほどお話になってましたけれども、地方創生人口ビジョンというなかで、ようやくそういういった形が出てくる中で、どう展開するのかというお話だと思います。それでは中塚様、お願いいたします。</p>
<p>中塚</p>	<p>私はですね、選ぶとすれば、「みんなで支えあうしくみづくり」が大事かなと。4つの重点プロジェクト、みな大事なんですけど。とくに私的には、しくみづくりかなと。このしくみづくりについては、いろんなことに関係するんじゃないかなと。まず、今ほども話でておりましたが人口問題、今現在がですね30,400人ですね。10年後には推定人口が26,100人、10年間で4,300人の減になります。先ほど見てました時に、自然減がだいたい年平均200人ぐらいかなと思って先ほど見ておりました。ということは、10年間で4,300人、年間430人、ということはたぶん7年、8年といくと高齢の方が増えられて、こういう計算なのかなという気がしました。人口はやっぱり、増やすためには若い方に結婚を早くしていただく、それで子作り</p>

	<p>も、子育ても、市で何かしかですね対策をとっていただいて、結婚早くして、早く子どもを生み育てやすい、そういう施策が必要でないかなと。そしてまたそのためにも、出会いの場を設けたりですね、あるいは婚活であり、いろんなことに皆まわりじゅうの人が支えあって、結婚を1日でも早く、そして1日でも早く子どもさんを生んでいただく、人口の歯止めをかけると、そういうことが必要でないかなと。そしてまた、今ほども話出ておりましたが、子育ての人がですね、やっぱり安心して仕事に勤められるように、何かあったときにも十分、いろんな対応、対策がとれるようなシステムが必要でないかなと、そのように思っております。それとまた、みんなで支えあうしくみづくりの中にはですね、いろんな若者の出会い、結婚、妊娠、出産、子育てと、一貫した支援、そういうものを支えあえるようなシステムができればいいなと、そのように思っております。以上です。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。皆さまのご専門の立場から、私もちょこちょこことですが、皆様方からも、後の方に出ておりますが、人口減、それぞれ色々なお話をいただいてきた中でございます。4つのプロジェクトどうでしょうか？というお話をいただきました。もう少し、お話を進めていきたいと思っております。</p> <p>では、この重点プロジェクトの推進において、先ほど、協働という言葉もすでに出ておりますが、どう協働していったらいいだろうかと。こちらにつきまして、少々短めでございますが1分から2分ぐらいで皆さま方一言ずつ、どう協働していくのか一言いただいた上で、いただいた後にこんどは市長に一言いただくというような形で進めていきたいと思っております。それでは皆様方、どう協働していくのかにつきまして、嶋田様からお願いしたいと思っております。</p>
<p>嶋田</p>	<p>ここはあの、しっかりとお話をさせていただきたいと思っております。人口増、それから小矢部の賑わいは、女性がキーマンだというふうに思っております。女性の意見を取り入れる尊重するっていうことが、まずは第一。そして、いろいろな事業を女性団体も展開しておりますが、市長さんをはじめこの行政の方との思いを、心を感じたいというふうに思っているわけです。抽象的なようですけども、このイベントをひとつ、ボランティアをひとつ、市民主体というふうに言われるんですが、この主体という中でも、そこにはいつも支援してくださる行政の後押しを感じるっていうことが必要だというふうに思っています。いつも皆さんと一緒に一体ということが、市民、行政、皆が感じれば、まさに相乗効果、この力を生むというふうに思っております。具体的に言いますと、何年も数値的に目標をもち検証していく、それからPRが上手くまわっていないな、PR下手だなというふうに思っております。そういう時はですね、プロを入れる指導してもらって、また、私たち市民をうまく使っていただきたいというふうに思っています。この限られた財源の中で、私たち自身が「廃止・継続・新規」、しっかりと判断をとらなければいけないというふうにも思ってますし、市民にもその判断する色々な情報をいただいて判断していきたいというふうに思っています。この将来の子どもたちに負の財産ではなく、しっかりとした財産を残してやりたいというふうに思っています。冒頭にも述べた</p>

	<p>とおり、人口増、この小矢部の賑わいというものは、女性の力を生かしてこそ、女性をいきいきと輝かすことで、しっかりと繋げるということ、声を大にしてお話をさせていただきます。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。女性の力、PDCAですとかPRに工夫、いろいろな話をいただきましたが、最後にいきいき輝けるという言葉でございました。ありがとうございました。では、六谷様お願いいたします。</p>
<p>六谷</p>	<p>まあ、協働ということですので、行政にだけ頼ってちゃだめだよということであり、市民の私たちもこの地域に誇りをもって、郷土への愛着をさらに養って伝播をしていかないといけないということではないかなというふうに思っております。人口を増やすために隣の市町村から奪い合いというのは、ほんとは一番いけないことだと思います。隣から、無理やり引っばってくるのではなくて、広い視野をもって、そこから小矢部を選んでいただけるようなしくみづくりが必要なんではないかなというふうに思います。まあ仮にですけども、シングルマザーを快く受け入れる仕事だったりとか、環境であったり、そういったことが、また女性が入ってきてお子様も来られるとか、そういったこともございますし、シングルマザーに最近目は行きがちですけどもシングルファーザーの方もいらっしゃいます。このファーザーというのがほんとに支援がすごくなくて、育児がほんとに大変だということを私は聞いたことがございまして、このシングルファーザーに対しても、小矢部市はしっかりとバックアップできる、そして私たちも、たとえば子どもに対して積極的に係わっていけるようなことができたらいいいのかなというふうに思います。まあほんとに学童保育代わりではないですけども、近所に住まう人たちが夕方くらいまで、面倒をみるというのはちょっとおかしいですけども、いっしょに話をできるような環境があって、小矢部の祭りのことだとかいろんな話をしながら小矢部をどんどん、どんどん好きになってもらえれば、子供たちもより小矢部が好きになってって、人口も増えてきて、誰もが気軽に笑顔で挨拶できる環境になるのではないかなというふうに思います。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。市民も誇りをもちながら、奪い合いでないという形の中で、最後、小矢部が好きになる幾つかの施策もご披露いただいたという形。ありがとうございました。では村上様お願いいたします。</p>
<p>村上</p>	<p>はい。人口対策とちょっとここの部分、繋げるお話ではなくなってしまうのかもしれませんが、県内において、ほんとに小矢部市っていうのは市民協働が、他市町村と比べて先を行っているのかなあと、そんな感覚、実は私もっています。ただ最近ですね、ちょっと思うことが、けっこう市民協働でいろいろ物事がやっても結局なんか内容を見ると、行政の方がやっていたらたよね？とか、そういうパターンが最近でてきているような感じがけっこう</p>

	<p>いたします。で、市民協働で物事やるっていうことは、やっぱり行政職員の皆さんも、市民と物事をやる、ただやっぱり予算を執行することだけではなくて、市民と物事を一緒にやるということもやっぱり必要だと認識する場でもあり、また私たち市民も自立してですね自ら行政と一緒に物事やるという自立した市民にならないといけないという部分というものもあるのかなと、そういうふうに思っております。そういう意味では、ほんとにこれから市民協働という部分が総合計画の中でも重要視されながら魅力的なまちになっていくことは必要なのかなと、そんなふうな考えをもっています。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。たしかに小矢部は一步先に行ってる。先ほど市長さんの中でも1%事業の話なされましたけど、いってると思います。ただし最近はそれぞれの中で協働と自立という言葉がでてまいりましたが、全国各地で協働をいろいろ模索しておりますので、今後も小矢部は一步先行くというようなことかもしれません。では戻りまして、中塚様お願いいたします。</p>
<p>中塚</p>	<p>私もですね、ちょっと人口の問題とはかけ離れますが、今と同じ「おやべ型1%まちづくり事業」のことでちょっとお話をしたいと思います。1%事業ですね、今年73~74件、その内に花に関係あるのはですね20件、約3割ですかね。非常に、小矢部市内に公園あるいは道路、空き地等々に花の1%事業が非常に多い。これはよその市町村から見られる人にとっては非常にきれいに映るのではないかと、そのように思うわけです。それで私どもも今、西部地区ではアサガオのまちづくりというものを今年度やりたいと思っております。やはり市外から来訪していただける方ですね、市のいい所を見ていただき、若い方が来ていただいて少しでも小矢部市に関心をもっていただく、関心をもっていただいて小矢部にいい若い人がいて一緒になっていただければ、よりいいなど。花から人を結びつけてなんとか人口増にならないかなと、あわよくばという願いもありますが。この1%事業というのは、桜井市長はほんとにすごいことをやられたなど、私いつも感心しておりますと共に、ほんとに敬意を払っております。それで私どもはまだまだこれから10年間、花以外にもいろんなことをがんばってやっていきたいと思うわけでありまして。以上であります。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。1%事業に触れていただきまして、いろいろこうまわしていこうではないかというお話だったかと思います。では、林様お願いいたします。</p>
<p>林</p>	<p>さきほどからいろんなお話の中で、人口減少云々ということが一番大きな課題になっておったかなというように、私なりに受け止めておるわけですが、それだけだけではやはり市の発展性というものはないわけなので、やはり先ほどの4つの重点プロジェクトが、いささかなりとも、それに引き続いてくるということがやっぱり大切ではなからうかなというように思っております。ちなみに、人口が少ないから外国人を使うというようなこともこ</p>

	<p>れは一理ございますが、現在、小矢部の方では400人ちょっとほど外国人が入っておると聞き及んでおります。これはまあ、どちらかという、定住者というよりも技能実習という方が非常に多いんじゃないかなろうかというように思っております。そういうことも大切ですが、いささかなりともそれで人口増、そして、なおかつそこで小矢部でお金をおとしてもらうというところがあるかと思えますけども、これから産業、経済等につきましては、省力化、無人化、それからロボットやAIというものがどんどんこれから増えてくると思うんですね。そうしますと、ますますこの人口問題というものが深刻に考えなければいけない、非常に大きな要素ではなかろかなというように思っております。そういうことで、今回6次総合計画の最終年度に入っている、そして尚且つ第7次の新しい10年間というものも非常にすばらしい提案がされております。ひとつひとつですね、大切に、手のつくところから優先順位を決めてやっていく必要があるんじゃないかなろうかなというように思っています。以上でございます。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございます。皆さま方のご専門の立場から、協働という切り口でいろいろお話をいただいたと思います。お待たせしました、市長、ここで、今までいただいておりますけれども、お一言いただければと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。策定委員会の専門部会におきましても、市民委員の皆さんから、なんとかこれ人口対策に、より重点を置いたそういう計画としていただきたいというご意見もいただきまして、先ほどからお話を拝聴させていただきましたけども、ほんとに人口対策の一点だろうというふうに思っております。やはり、今の地方創生を考えてみますと、まさに人口減少との戦いでございまして、そういう意味ではわれわれ地方自治体、もはやもう、好むと好まざるに関わらず、いわゆる都市間競争に突入していると言っても決して過言ではないなというように思っております。人口減少対策、皆さんもご存知のようになかなか一朝一夕には進まないということで、まあどうしたらいいのかと、毎日と言っていいくらい苦慮しているところでございます。さきほどからお話をいただいておりますけれども、やっぱり様々な年代の方が暮らす、こういった都市機能を維持するには、やはり一定程度の人口規模が必要なんだろうというふうに思っております。ぜひ、第7次総では、子育てと教育、それから産業、こういったものは、やっぱり子どもを生み育てていく上で絶対必要だというふうに思っておりますし、あと観光振興、魅力あるまちづくり、こういったことはやっぱり同時にやっていかなければ、なかなか人口減少をゆるやかにすることはできんなど、いうふうに思っております。また、住民同士のつながりを強めたり、あるいは地元の企業さんを支援したり、そういった意味では地域の総合力、こういったものを高めていくということが重要だなというふうに思っております。それから若い方々の定住促進、出生率の向上、こういったことも大きな課題であります。全国には人口、あるいは子どもを増やすことに成功した市町村の例もございますので、その市町村には、見ておりますといくつかの共通点がございまして、今ほど言いましたように子育てと教育、それから産業、そういったところにですね、ある意味、選択、集中して、取り組んでいかなければ</p>

<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>いけないなと思ったところであります。</p> <p>はい、ありがとうございました。市長の方からですね、皆さま方からいただいた事に対する、ひとつ目の区切りをいただいたと思います。最後に、成功している市町村のお話もいただいたと思います。道路を自分で作りながらも、先ほどおっしゃってたような子育て・教育・産業と、ほんとに人が増えてるところもあるんだと。というような形の中で、今後舵を切られていかれるんだと思います。</p> <p>では、今までいろいろな施策についてお話をいただいておりますが、市長の方の基調講演の中、最後の方にありましたけれども、おやべ夢構想。夢、実現できるかはこう難しいんだが、とにかく夢を語っていきこうということで始められたということもお伺いしていますが、六谷様からそれぞれ2分ずつでございますが、夢構想についてまたお一言ずついただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>六谷</p>	<p>いまほど金岡先生もおっしゃったとおりに、夢は夢と、いうこともあるかもしれませんが、ほんとにたくさんありますので、内容はともかくですね、私、このカラーのところをちょっと見ておりますと、ほんとに初めて知ったような夢構想があるんだなと、いうふうに思ったところが正直なところでございます。こういった10年だったり5年とか、そういった時にだけ、夢構想というのがあって今進捗状況がどうですよという、告知だけで終わってしまうと、ほんとに夢で終わってしまうのではないかなというふうに思います。ほんとに夢を叶えたいのであれば、毎日呪文のように「ああなりたい、こうなりたい」と言い続けることで叶うということも私は聞いたことがございますので、毎日なれるように、ケーブルテレビだとか市報だとかで、子どもでも言いやすいような夢構想の夢を書いていただいて、イメージできるような夢構想ができたらいいなというふうに思います。だれもが「いいね」と思われるようなものであったり、市民がどうしたら本当の心豊かな生活ができるのかを想像して、未来に向けて夢を描けたら一番良いのではないかなというふうに思います。夢構想のものを見ていても、なんとなくイメージがしにくいというのが現状でございますので、イメージのできる、みんなが笑顔になれるような構想ができたらいいなというふうに思っております。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい。夢で終わるのではなくてイメージしていきましょと。「いいね」と言える姿をと、いうことございました。ありがとうございました。では村上様お願いします。</p>
<p>村上</p>	<p>夢を形に。まあ、夢を持つことは、わたくしは大賛成でございます。夢があるから私たち市民が、生き生きとできることもあると思います。ただ、近い将来ですね、人口等いろんな条件が今後変わってくるということも考えられます。その時にはですね、限られた条件の中で、形にできるもの、またそうでないものは、やっぱりしっかり判断していかなければいけないということで、今、これだけの夢を持つことは十分必要なことかもしれませんが、適切な判断</p>

	<p>をその時々にしていくということを、私はこの夢構想には、ひとつ市民として判断、また市としても判断していただく必要な条件でないのかなという思いをひとつ持っております。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。夢は形に持つべきだと、いうことをいただきながらも、ただ人口減で姿は変わるんで、適切に判断もしていきましょう、という形のお言葉でございました。ありがとうございました。では、中塚様お願いいたします。</p>
<p>中塚</p>	<p>はい、わたくしはですね、この7次総合計画での9番、10番の、「おやべ横丁ルネサンス構想」、「おやべまちなかルネサンス構想」、これは非常に気になる構想でありまして、是非とも駅北であり、駅南であり、駅のどちらかに、これを二つ一つにしたようなものができればいいなど。当然、市外からですね、サラリーマンの方であり、あるいは観光客の方であり、小矢部で一泊してどこか行こうよとなったときに、駅の前とか駅の南であるとか、そこにやはり宿泊施設、そしてまた飲食店横丁、そういうものがないと、人はやっぱりなかなか来ていただけないんでないかなと、そのように思います。以上であります。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。ルネサンスという中で、気になるというところの話をいただきました。駅周辺の話をしていただきました。実は富山大学にもですね、富山の駅前の人たちがやってきて駅周辺を自分たちで変えたといった事例があります。ぜひ、協働ということがありましたので、皆様方も、いまお話ありましたが、いろんな動きがでるといいなあと思います。はい、ありがとうございます。では続きまして林さん、お願いします。</p>
<p>林</p>	<p>私も、いろいろここに掲載されました夢構想、こういうものが全部網羅できれば最高であるわけなんです、なかなかあんまり欲張りしてでも、どっちつかずというような形になるうかと思うんですね。だから、やはりなんか突出してですね、これはもう今年は絶対やるんだぞ！というような形でやっていけばいいんじゃないかなというように思っております。まあ、ここでキャッチフレーズを書いてあるのは、活字、印刷物、こういうものについては、非常に良い文句であります。大変よく考えて作られたもんだなあ。これはあくまでも、自治体の皆さん方が、「小矢部、こんなことやってるの」と、格好のいいような形ではなかろうかと、中身が大切なんじゃないかと私は思っております。そういうことで、ひとつまたよろしくお願いいたします。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、ありがとうございました。突出するもの、中身を充実しようじゃないかというようなことでございました。嶋田様、お願いいたします。</p>
<p>嶋田</p>	<p>はい。この夢構想の話に繋がるかどうか分かりませんが、先ほどパネルディスカッションになる前までに、パネリストでお話を少し、お弁当食べながらさせていただきました。昔を振り</p>

返りながら、六谷さんの若い発想を聞いたり、今の子育ての生活を聞いたり、その中で林さんの商工のお話を聞いたり、それから中塚さんが、「今自治会ではね」というような話を聞いたり、ほんとに良い時間だったなあというふうに思うんです。そういうふうに思うと、やっぱり小矢部の中を、小矢部の方たちで話をしたい。それから小矢部をよく知ろうよと。女性議会でよく、小矢部を視察するんですけど、「こんな良い所があったの?」「こんなことしてたの? ぜんぜん知らなかったわ」というのを、いつもこう聞くんですけども、小矢部の者が小矢部のことをしっかり知って、そして他市へアピールできるように、他県へアピールできるように、その中でなにを出来るかっていうことを、しっかりと皆でいろいろな話をしていきたい、そして何かができるよ、「いや、きっとだめよね」なんて言わないで、愚痴を言うんじゃないかって建設的な意見を述べて、そして自分たちで盛り上げようよ! というふうに思っています。それから、だいぶクロスランドもいっぱいになってきたなと思いますけど、親子でゆっくりじっくり、また核家族になってるので、高齢者も含めて、どこかでみんなで交流できる、「ゆっくり」それから「ゆったり」「じっくり」触れ合う空間は必要だなというふうに思います。そのことが夢構想を、しっかりとしたものにしてくれるというふうに思っております。

金岡
コーディネーター

はい、ありがとうございました。小矢部を知るのは、小矢部の人たちだと。話をしながら盛り上がっていきこう! というような形で、ほんとの夢をどう実現していくのかというお話をいただいたと思います。

では、会場からご意見、あるいはご感想等あればですね、どなたかいらっしゃればマイクをまわそうかと思いますが…(挙手あり) はい、どうぞ。

A氏

定住人口というのはもちろん大事なんですけど、こういう時代ですので、やっぱり交流人口をいかに増やしていくかと。たとえば高山など行きましても、半分ぐらいは外国人かと思うくらいなんですけど、人口が少なくても例えば、岐阜県的美濃市のように22,000人くらいしかおりませんが、うだつの上がる町並みあたりがひとつの資源になっておりますし、意外と地元の方はあまりよく思ってもらってらっしゃらなくても、外からの目で「これは大きな観光資源になるんじゃないかな」ということで、例えばですが滋賀県でも、長浜とか近江八幡など、いま流行の障害者アートでまちづくりを成功してらっしゃいます。こういうことはやはり、構想の9、10、11。まちなかの振興ということにも関連してくるんじゃないかなと思います。小矢部市になくて他の市にあるもの、実はマラソン大会なんですけど、他の市はみんなそれぞれ独自の良い大会、魚津でも黒部でも、砺波でも南砺みんなあります。小矢部だけないんです。たとえば、倶利伽羅と津沢をまわってくるとか、やりようによっては10キロとかハーフのコース作れると思いますので、これも、富山県も石川県も各市町村もやっていますので、これをぜひ実現できるようにご尽力いただければ。それとともに、ユニバーサルデザインの時代ですので、高齢者も障害者も子どもも一般の方もできるようなシステム、道具、交通機関、こういうものをもっと着目していただければ振興につながるんじゃないかなというふうに思います。

<p>金岡 コーディネーター B氏</p>	<p>はい、ありがとうございました。もう一人いきます。お願いします。</p> <p>私が今回聞かせてもらって、学童保育についても、やっと若い方の意見を聞いていただいて、6時終了というものが6時半ということで30分延長していただけたと。保育所についても、延長保育ということで7時までやっておったという、核家族の方にとっては大変ありがたかったことが、学童保育になった途端に、今までが短くなったということで大変つらい思いしながら、子どもを送ったりもしていました。ですが今やっと言葉がだんだん聞いていただけて、延びてくるというようになったということで、ほんとありがたく思っています。いま若い年代の育児をまさにやっておられる方の意見をどんどん聞いていただける機会を、増やしていただきたいと、そういうふうに思っております。PTAの方で、どんどん委員等に誘っていただいて意見等は言わせていただいておりますが、実際にでてくる者としましては、育児の方がだんだん卒業に近づいている者と、いうことで、まさに関わっている低学年の子どもを持った親とが、保育所の子どもを持っている親の意見をどんどん聞いていただける機会を増やしていただきたいなと思います。こういった場面においても、若い方があまり参加しないというのが、実情かと思いますので、こういうところに来ずらいのかもしれませんが、こういったところへ来なくても、聞いていただける所をなにか作っていただければと思います。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>ありがとうございました。育児世代の声の反映をという形でございました。市長も先ほどおっしゃってましたが、子育てで人が増えている市町村もありますので、今後どうされるかというのも、皆さま方のご意見次第かとおもいます。最後、総括という形でですね、桜井市長の方へマイクをまわしたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>今日は、本当にありがとうございました。パネラーのみなさんのお話、それから会場のみなさんのお話を聞かせていただきまして、改めて思ったところでございますけども、第7次総につきましても、「魅力・安心・充実」この3つのワードを掲げさせていただいておりますけども、やはり「住んでみたい」とそう思っただけのような小矢部にしたい、「住み続けたい」とそう思っただけのような小矢部にしたい。そしてやっぱり「住んで良かった」と、そう思っただけのような小矢部市にしたいということでもあります。この3つのフレーズにこだわっていけば、終（つい）の住みかを小矢部にという、そういうった定住の波は必ず起きると、私は確信をしております。そういう意味では、先ほどからいろいろいただきましたご意見しっかりと、この第7次総に反映させていただきたいなというふうに思っております。実は4月から、市内の18地区でタウンミーティングが開催されるわけでありまして、ぜひその会場に足をお運びいただければなというふうに思っております。なるべく、いろいろな方々のお声を聞かせていただきたいという思いがございます。もっと言えば、いわゆるサイレント・マジョリティと言いますか、そういう声なき声も、なるべくくみ上げていこうというそう</p>

	<p>いう思いでありますし、アンケート調査もやりますので、ぜひ会場に足を運んでいただければありがたいというふうに思っております。やはり、改めて思いましたのは、これからやっぱり教育、子育て支援、そして住環境のすばらしさ。小矢部の場合は、ある意味、通勤や通学に便利な地域だというふうに思っておりますので、そういったところをパッケージとしてしっかりと、市外、県外にアピールをしていくということで、Uターン、Iターン、Jターン、そういったところの呼び水となると言いますかね、そういうところに取り組みもしていきたいというふうに思っております。いろんな意味で、なかなかこれからの人口の大幅増を見込めない社会情勢でありますけども、いかに市の存在感を高めていくかということが、極めて重要なテーマになってくるというふうに思っておりますので、どうぞまた、皆様方のお力添えを賜りますよう、よろしく願いを申し上げます、総括とさせていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>金岡 コーディネーター</p>	<p>はい、市長、ありがとうございました。皆さまのご協力をおもちまして、予定の時間となっております。以上をおもちまして、「小矢部市の未来とその実現をめざして」と題して行って参りましたパネルディスカッションを終了したいと思います。最後にパネリストの皆様方に今一度、盛大な拍手をお願いしたいと思います。</p> <p>〈拍手〉ありがとうございます。</p> <p>また、会場の皆さんにおきましても、長時間、お付き合いいただきありがとうございました。本日のフォーラムを機会に、総合計画に関しましてさらなる関心を持っていただき、小矢部市の将来像の実現に向けて、協働とありましたが、市民の皆さまと行政が一体となって、さらなる進展を図っていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。これで終わりたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>司会(坂田)</p>	<p>金岡先生、それからパネリストの皆さん、どうもありがとうございました。ここで退場される皆さんを、ぜひ拍手でお送りいただきたいと思います。どうもありがとうございました(拍手)。</p> <p>本日、パネリストの皆さんや会場の皆さんから頂いた貴重なご意見やご提案につきましては、総合計画の中に反映させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。なお、事前に配布いたしましたアンケートにつきましては、お帰りの際、職員が回収いたしますのでご協力をお願いいたします。</p> <p>以上をおもちまして、第7次小矢部市総合計画市民フォーラムを終了いたします。皆さま、長時間お疲れさまでした。ありがとうございました。(終了)</p>

あいさつ等



趣旨説明



基調講演



パネルディスカッション

